

ルカ 23 : 13-55

「イースターに贈られるあなたへの神の恵み」

23:13 ピラトは祭司長たちと指導者たちと民衆とを呼び集め、

23:14 こう言った。「あなたがたは、この人を、民衆を惑わす者として、私のところに連れて来たけれども、私あなたがたの前で取り調べたところ、あなたがたが訴えているような罪は別に何も見つかりません。

23:15 ヘロデとても同じです。彼は私たちにこの人を送り返しました。見なさい。この人は、死罪に当たることは、何一つしていません。

23:16 だから私は、懲らしめたうえで、釈放します。」

23:18 しかし彼らは、声をそろえて叫んだ。「この人を除け。バラバを釈放しろ。」

23:19 バラバとは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢に入っていた者である。

23:20 ピラトは、イエスを釈放しようと思って、彼らに、もう一度呼びかけた。

23:21 しかし、彼らは叫び続けて、「十字架だ。十字架につけろ」と言った。

23:22 しかしピラトは三度目に彼らにこう言った。「あの人があんな悪いことをしたというのか。あの人には、死に当たる罪は、何も見つかりません。だから私は、懲らしめたうえで、釈放します。」

23:23 ところが、彼らはあくまで主張し続け、十字架につけるよう大声で要求した。そしてついにその声が勝った。

23:24 ピラトは、彼らの要求どおりにすることを宣告した。

23:25 すなわち、暴動と人殺しのかどで牢に入っていた男を願いどおりに釈放し、イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。

23:26 彼らは、イエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。

23:27 大ぜいの民衆やイエスのことを嘆き悲しむ女たちの群れが、イエスのあとについて行った。

23:28 しかしイエスは、女たちのほうに向いて、こう言われた。「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけない。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。

23:29 なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は、幸いだ』と言う日が来るのですから。

23:30 そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に倒れかかってくれ』と言い、丘に向かって、『われわれをおおってくれ』と言い始めます。

23:31 彼らが生木にこのようなことをするのなら、枯れ木には、いったい、何が起こるでしょう。」

23:32 ほかにもふたりの犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために、引かれて行った。

23:33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとは右に、ひとは左に。

23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。

23:35 民衆はそばに立ってながめていた。指導者たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし、神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ってみろ。」

23:36 兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、

23:37 「ユダヤ人の王なら、自分を救え」と言った。

23:38 「これはユダヤ人の王」と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった。

23:39 十字架にかけられていた犯罪人のひとはイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。

23:40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。

23:41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

23:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるとときには、私を思い出してください。」

23:43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

23:44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。

23:45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真っ二つに裂けた。

23:46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

23:47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、「ほんとうに、この人は正しい方であった」と言った。

23:48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をたたいて悲しみながら帰った。

23:49 しかし、イエスの知人たちと、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちとはみな、遠く離れて立ち、これらのことを見ていた。

23:50 さてここに、ヨセフという、議員のひとりで、りっぱな、正しい人がいた。

23:51 この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた。

23:52 この人が、ピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。

23:53 それから、イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬ったことのない、岩に掘られた墓にイエスを納めた。

23:54 この日は準備の日で、もう安息日が始まろうとしていた。

23:55 ガリラヤからイエスといっしょに出て来た女たちは、ヨセフについて行って、墓と、イエスのからだの納められる様子を見届けた。

はじめに

今年のイースターに向けてのメッセージは、2回だけです。イエスの死と復活をはっきりと記しているルカの福音書から学びます。

この個所の学びを始める前に、この福音書の著者と、彼がこれを記した目的について知る必要があります。

そのために、ルカの福音書の冒頭部分を読みましょう。

ルカ 1 : 1-4

1:12 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、

1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。

1:4 それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていたいただきたいと存じます。

ルカは唯一、人間の姿で生きておられたイエスと実際に会ったことのない福音書の著者です。

ルカは、イエスが公生涯を送られた3年間、そばにはいませんでした。

この福音書の情報源は、イエスの生涯の出来事を目撃した人々の証言です。

ルカは実際に、それらの出来事の目撃者たちをひとりひとり訪ねました。

イエス・キリストの誕生から生と死、そしてよみがえりまで、ルカは順序立てて詳細に記録に残そうとしました。

この福音書は、テオピロという名のひとりの人に宛てられた報告書です。

個人に焦点が当てられているのはそのためかもしれません。

ルカの福音書は、イエスと出会ってその愛と恵みを体験した個々人について書かれ、個人に宛てられた福音書と言えます。

ですから、このイースターの学びを始めるにあたり、皆さんの心もイエスの愛と恵みに触れられるようにと願います。

今日の聖書箇所の中で、今朝は4人の登場人物に注目しましょう。

バラバ、十字架にかけられた犯罪人、イエス、そしてヨセフです。

これらの人々を取り巻く状況について学んでいくと、ゴールデンウィークの晴れた日に日本を照らす太陽のように、神の恵みが輝いて見えるでしょう。

1. バラバという犯罪者に向けられた神の恵み (13-25 節)

今日の箇所に至る背景を知っていただくために、ルカの福音書の別の箇所を少しお読みします。

ルカ 1 : 26-35

1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。

1:28 御使いは、入って来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。」

1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。

1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに。」

1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」

聖書の神は、素晴らしい奇跡を起こして、赤ちゃんの姿でこの世に来られました。

神は、処女をとおしてこられました。それは、人類の祖アダムとエバの罪のためです。

神は、最初の男と女を罪のない完全な状態に造られました。

けれども、創造主への不従順が原因で、神はふたりを「死」に定めて罰せられました。

ふたりの行為の結果、この世に生まれる人は皆、罪の性質を持っています。

人間は常に悪事を望んでするわけではなく、罪の性質のせいで、そうしてしまうのです。

元々、人間は完全な性質を持って、神とともに永遠を過ごすために造られました。

神は永遠の罰から人類を救うために、ご自身の御子イエスを遣わされたのです。

イエスは神の選びの民のもとへと来られました。これは、昔から伝わるユダヤ人の預言の成就です。けれども、「異邦人を照らす光」になられるお方でもありました。(ルカ 2 : 32)

つまり、イエスのメッセージは日本人のためでもあります。そして、世界中のすべての人々のためでもあります。

ルカは、イエスが教える働きを始められたのは30歳のころだと語ります。

イエスは、12人の男性を選ばれました。神の御国について、そしてその御国に入るために必要な事柄について、イスラエル各地を巡って教える旅に同行させるためです。

ルカ 4 : 14-21

4:14 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り一帯に、くまなく広まった。

4:15 イエスは、彼らの会堂で教え、みなの人にあがめられた。

4:16 それから、イエスはご自分の育ったナザレに行き、いつものとおり安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。

4:17 すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけられた。

4:18 「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、

4:19 主の恵みの年を告げ知らせるために。」

4:20 イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。会堂にいるみな目の目がイエスに注がれた。

4:21 イエスは人々にこう言って話し始められた。「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました。」

この個所で、イエスはイザヤというユダヤ人預言者が語った預言を自らが成就したと宣言されました。

イエスは、自分こそが待ち望まれたユダヤ人の救い主だという主張を証明するために、多くの奇跡を行い、人々から悪霊を追い出しました。

ルカは、イエスがやもめの息子を死からよみがえらせたとも語ります。

ルカ 7 : 11-16

7:11 それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大ぜいの人の群れがいっしょに行った。

7:12 イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかたぎ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。

7:13 主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい」と言われた。

7:14 そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、起きなさい」と言われた。

7:15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。

7:16 人々は恐れを抱き、「大預言者が私たちのうちに現れた」とか、「神がその民を顧みてくださった」などと言って、神をあがめた。

この奇跡は、イエスが死さえも支配する力をお持ちであることを示します。

もうひとつ私たちが知らなければならないのは、イエスが人の罪を赦されたことです。

ユダヤ人は、神だけが罪を赦すことができると知っていました。ですから、これは彼らの考え方に混乱を与えました。

ルカ 7 : 36-50

7:36 さて、あるパリサイ人が、いっしょに食事をしたい、とイエスを招いたので、そのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。

7:37 すると、その町にひとりの罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏のつぼを持って来て、

7:38 泣きながら、イエスのうしろで御足のそばに立ち、涙で御足をぬらし始め、髪の毛でぬぐい、御足に口づけして、香油を塗った。

7:39 イエスを招いたパリサイ人は、これを見て、「この方がもし預言者なら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っておられるはずだ。この女は罪深い者なのだから」と心ひそかに思っていた。

7:40 するとイエスは、彼に向かって、「シモン。あなたに言いたいことがあります」と言われた。シモンは、「先生。お話しください」と言った。

7:41 「ある金貸しから、ふたりの者が金を借りていた。ひとりには五百デナリ、ほかのひとりには五十デナリ借りていた。

7:42 彼らは返すことができなかつたので、金貸しはふたりとも赦してやった。では、ふたりのうちどちらがよけいに金貸しを愛するようになるでしょうか。」

7:43 シモンが、「よけいに赦してもらったほうだと思います」と答えると、イエスは、「あなたの判断は当たっています」と言われた。

7:44 そしてその女のほうを向いて、シモンに言われた。「この女を見ましたか。わたしがこの家に入って来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかつたが、この女は、涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれました。

7:45 あなたは、口づけしてくれなかつたが、この女は、わたしが入って来たときから足に口づけしてやめませんでした。

7:46 あなたは、わたしの頭に油を塗ってくれなかつたが、この女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。

7:47 だから、わたしは『この女の多くの罪は赦されている』と言います。それは彼女がよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。」

7:48 そして女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。

7:49 すると、いっしょに食卓にいた人たちは、心の中でこう言い始めた。「罪を赦したりするこの人は、いったいだれだろう。」

7:50 しかし、イエスは女に言われた。「あなたの信仰が、あなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

イエスは、ユダヤ人の宗教指導者には受け入れがたい存在でした。

ですから、彼らはイエスの評判を傷つけ、イエスの言っていることはでたらめだと言おうと企みました。

イエスが人間の姿をした神でないなら、冒瀆の罪で有罪にすることができるからです。

もう一か所読むべき箇所は、ルカ 22 : 66-23 : 4 です。

ルカ 22 : 66-23 : 4

22:66 夜が明けると、民の長老会、それに祭司長、律法学者たちが、集まった。彼らはイエスを議会に連れ出し、

22:67 こう言った。「あなたがキリストなら、そうだと言いなさい。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょうし、

22:68 わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。

22:69 しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着きます。」

22:70 彼らはみなで言った。「ではあなたは神の子ですか。」すると、イエスは彼らに「あなたがたの言うとおりに、わたしはそれです」と言われた。

22:71 すると彼らは「これでもまだ証人が必要でしょうか。私たち自身が彼の口から直接それを聞いたのだから」と言った。

23:1 そこで、彼らは全員が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。

23:2 そしてイエスについて訴え始めた。彼らは言った。「この人はわが国民を惑わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることがわかりました。」

23:3 するとピラトはイエスに、「あなたは、ユダヤ人の王ですか」と尋ねた。イエスは答えて、「そのとおりに」と言われた。

23:4 ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には何の罪も見つからない」と言った。

前置きがずいぶん長くなりましたが、この背景を理解していないと、今日のメッセージの要点を見逃してしまうかもしれないので、必要でした。

聖書の神が今日私たちに語りかけられておられることを、皆さんに理解してほしいのです。

今日の個所で、神の恵みを受けた一人目の人物は、「バラバ」という犯罪者です。

バラバは殺人と暴動の罪で投獄されていたとあります。

彼は、無情な犯罪者で、神の恵みあわれみを受けるにふさわしい人物ではありませんでした。

ローマ総督ピラトは、毎年ユダヤの祭りである過越しに、受刑者を赦免する権威を持っていました。

それで、イエスを釈放しようと申し出ました。

けれども、ユダヤ人の群衆は、イエスを十字架につけて殺し、バラバを釈放することを求めました。

犯罪を一度も犯したことの無い **100%** 聖なる神の御子イエスが十字架刑に処せられ、殺人犯が釈放されるというのは、まったく公正ではありません。

人間の考えでは誰もが、殺人犯が釈放されて、神の御子イエスが正当な理由もなく十字架刑に処せられるのは間違っていると思います。

けれども、聖書は人間の考えによる書物ではありません。聖書は、人間を介して神の御手によって記された書です。（テモテ第二 **3 : 16**）

バラバの話は、すべてのクリスチャンの経験談です。

まだ経験していない人も、神の恵みによって、自らの経験談とすることができます。

神の恵みという、身に余るあわれみによって、バラバは釈放されました。

私たちは殺人や強盗など、日本の刑法に触れるような重罪を犯したことはないかもしれませんが。けれども、神の基準によれば、私たちは皆、罪を犯し、神の聖さに達することはできないのです。

聖書は、すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができないと教えます。

（ローマ **3 : 23**）

神の目には、バラバも、あなたも、私も皆、同罪なのです。

イエスがバラバを罪の罰から解放することがおできになるなら、私たちのことも罪の罰から解放する力をお持ちです。

イエスは今も、罪のある私たちに恵みを示す働きをしておられます。

イエスは今、あなたを罪の重荷から解放することがおできになります。

神は私たちのために永遠のご計画とすべての良いものを備えていてくださいます。それを喜んで受けるのを阻む罪の力から、イエスは今、あなたを解放できるのです。

問題は、神の目に私たちの罪がどれほど深刻なものであるかを理解していないことです。

神が罪をどれほど深刻なものとして見ておられるか、今日神が私たちの心にはっきりと教えてくださいますように。

2. 自らの罪を悟った犯罪人に対する神の恵み (23 : 39-43)

バラバが自分の罪を悔いて神の恵みを信じたかどうかはわかりませんが、イエスの隣で十字架にかけられた犯罪人は、自らの罪を悟っただけでなく、イエスが無罪であることとどういふお方であるかを理解しました。

ルカ 23 : 39-43

23:39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。

23:40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

23:41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

23:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」

23:43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

ふたりはどちらも犯罪を犯して、罰せられるべき人物でした。

けれども、ひとり罪を悔い改めて赦され、もうひとりイエスの愛を拒みました。

今日、私たちが自分自身に問うべきことは、自分はこのどちらの犯罪者の立場だろうかということです。

神に対する罪を悟った犯罪人と同じ立場でしょうか。イエスをとおして、神の恵みと赦しを受け取りましたか。

それとも、イエスがどういうお方であることを認めようとしなかった犯罪人と同じ立場でしょうか。あなたに向けられたイエスの愛を拒んでいませんか。

3. イエスによって、私たちが神の御前に出られるようにしてくださる神の恵み (44-47 節)

この箇所を理解するには、ユダヤ人が創造主である聖書の神を礼拝した方法について知る必要があります。

神がご自身の選民をモーセの指揮によりエジプトの奴隷生活から救いだされた後、神は幕屋の建設についてモーセに語られました。(出エジプト 25 : 1,2,8-9)

幕屋とは、罪の深刻さと罪の赦しを得る方法について神の民に教えるための視覚教材のようなものでした。

同時に、幕屋は神がご自身の民に語られる場所でもありました。

幕屋内には、至聖所と呼ばれる閉ざされた空間がありました。そこには、年に一度、贖いの日に大祭司だけが入れます。民の罪のために特別ないけにえをささげるためです。

至聖所と聖所は、分厚い垂れ幕で区切られていました。

その厚さは約 10cm です。

この垂れ幕が、聖なる神と罪深い人類を分けていました。

贖いの日に大祭司が入る以外に、人が至聖所に入ると、入った人は即死します。

神が定められた罪の赦しの制度には、動物のいけにえが必要とされました。動物は、罪を犯した人間の代わりに死ぬのです。罪のない動物が、罪ある人の身代わりにささげられたのです。

イスラエルの民が約束の地に定住したとき、幕屋と同じ構造の神殿を代わりに建てました。

その場所は、神の御住まいとされました。

その場所に入る特権を持つのは大祭司だけでした。それも年に一度、人々の贖いのためです。では、44-45 節に話を戻します。

ルカ 23 : 44-45

23:44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。

23:45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真っ二つに裂けた。

聖所と至聖所を区切っていた垂れ幕を、神は裂かれました。この行為をとおして、神ははっきりと語られました。

それは、神の御子イエスをとおして、赦されて神の御前に入るための新たな道を神が開かれた、という人類へのメッセージです。

動物のいけにえはもはや必要なくなりました。神の御子イエスが、人類の罪のためにただ一度ささげられるいけにえとなられたからです。

神の恵みは、私たちがイエスのおかげで神の御前に出られるようにしてくれました。

これは驚くべきことです。ユダヤ人には衝撃的だったでしょう。

およそ 1,440 年もの間、ユダヤ人は定められた方法で神を礼拝していました。

彼らは、罪の深刻さを理解していました。罪の赦しを得るために、動物が死ななくてはならなかったからです。

そして、100%聖なる神に人が個人的に近づくことなどできないということも心得ていました。

人間が神のご臨在の中に入ろうとすれば、その場で死んでしまいます。

大祭司だけが年に一度、神の御前に出ることができました。それも、贖いの日に民の赦しを得るためです。

神殿で仕えていた祭司たちも、垂れ幕が真っ二つに裂けるのを見て、仰天したことでしょう。今では、イエスの死によって、私たちは多くの罪を赦していただき、神の御前に出ることができます。

そうするかどうかは、聖なる創造主、聖書の神の前でひとりひとりが決めることです。

神の赦しを体験し、神のご臨在の中で永遠を過ごしたいと思ったら、次の 4 つのことをしなくてはなりません。

第一に、自分の罪深さを知ることです。

聖書の神は罪を憎まれます。罪は罰せられなくてはなりません。神は私たちの罪を罰せられます。

罪の罰は死に至ります。それは、創造主から永遠に引き離されることです。

第二に、自分の罪深さを知ったら、イエスに罪の赦しを求めることです。

そうするためには、イエス・キリストが十字架にかかって死なれた三日後に死からよみがえられたことを信じる必要があります。イエスが今も生きておられると信じるなら、確信をもってイエスに話しかけられるでしょう。

今日すぐにでも、誰かと一緒に祈って、イエスにあなたの罪を赦していただくようお願いできます。

第三に、生涯イエスを愛し、イエスについていくと約束することです。

イエスについていくとは、他の人には支持されないことをしなければならないこともあります。

また、聖書の教えに従うために、生き方を変えることです。

神の聖霊は、イエスと生きる新しい人生を助けてくださいます。

第四に、イエスについていくという決心を周囲の人に告白することです。

ローマ 10 : 9

10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

最後に、それが本当に心からの決心かどうかを確認します。

今日、信仰の一步を踏みだし、神の御臨在の中にいたいと思ったら、礼拝後どうぞこの場に残ってください。「リフト」の看板のところで、係の者が待機しています。

4. ユダヤの宗教指導者にも伝わった神の恵み (50-56 節)

50-56 節には、イエスを十字架刑に処すという決議に同意していなかったヨセフという議員が、埋葬のためにイエスの遺体を引き取る許可を求めたとあります。

その行為から、イエスの人生をとおして神がなされたことをヨセフがいくらかは理解していたことがわかります。

イエスというお方を信じていなければ、埋葬のために高額な費用を出さなかったはずですが。ヨセフは、イエスが人の姿をした神であられると信じていたのでしょう。そして、イエスご自身の口とユダヤ人の聖書によって幾度となく預言されていた復活を信じていたのでしょう。当時、裕福な人だけが個別の墓を用意することができました。

通常は、家族の墓があつて、そこに一族が皆埋葬されていました。それは、イエスが埋葬されたような岩を掘ったような形状ではありませんでした。

これは、イエスが埋葬されたと推測される岩に掘られた墓の写真です。

神は、人類への恵みを惜しみなく表されました。そして、ヨセフは物惜しみせず、最高の埋葬地を提供しました。

ヨセフは、イエスのことばを信じました。そして 3 日後、その信頼は裏切られませんでした。イエスを信じ、聖書に記されたイエスのことばを信じると決心すれば、その信頼が裏切られることはありません。

先延ばしにする理由はあるのでしょうか。今日こそ、救いの日です。